

繰り返すことのない贖い

へブライ人への手紙一〇章一〜一八節

これらが赦される以上、罪のための献げ物はもはや無用です。
(18)

当時の社会では、どんな宗教も犠牲を献げていました。このため、救われたばかりのキリスト者にとつて、犠牲を献げない礼拝は驚きであり、戸惑いでした。そのようなキリスト者たちに、著者は「罪のための献げ物はもはや無用です」と言い聞かせます。キリストによる完全な贖いがすでになされたからです。これにより、礼拝は罪を思い出すためのものではなく、贖いの恵みを思い起こす時となりました。私たちの罪がすでに赦されているという恵みにしつかりと立つように招かれる時となりました。献金も恵みに対する感謝の供え物であつて、罪を償うための犠牲ではありません。犠牲ではなく、感謝をささげることが礼拝の中心へと変わったのです。毎週の礼拝において、キリストの十字架による罪の赦しを確信しつつ、喜びと感謝をもって、主を礼拝しようではありませんか。